

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら当代島(1階)		
所在地	千葉県浦安市当代島2-22-29		
自己評価作成日	平成24年9月19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成24年12月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様一人ひとりに合わせた毎日の生活の流れを大切にし状況や状態に合わせた日々の日課を常に考えるようにしています。  
 今あるご利用者様の最大限の力を自信へと繋がるように職員一同努力に励んでいます。  
 ご利用者様と職員と一緒に買い物へ出かけたり、料理などをしたりすることで個々の支援を考え、できないことに関してさりげなくお手伝いできるようにしています。  
 日々の生活の中で、近隣の商店へ積極的に買い物へ行くことなどとして、いつまでも地域との繋がりが持てるように

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「地域との交流を深める」を平成24年度の年度目標に掲げ、年度目標達成に向けた月間目標を作成し、毎月のユニットミーティングにおいて当月の目標の振り返り及び次月の目標を共有している。特に今年度は地域の方が気軽にホームに足を運んで頂ける環境作りにも重点を置き、近隣の方がホームにお花を届けて下さる等、着実に地域との交流も深まってきている。日々の支援においては、利用者の要望する場所に個別でお連れする等、個別支援に力を入れて取り組んでいる。利用者が普通い慣れたパン屋にお連れし、友人と家族の方との時間を大切にする等の取り組みも確認できた。外出活動後に提出する行事報告書の内容も今回の反省を踏まえ、次回にどう活かすべきか詳細に記載しており、職員も意識高く取り組む姿勢が確認できた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『人が、心がすべて』を掲げ、地域密着によるトータル体制を基に日々の実践を行っている。が全職員が完全に共有するまでに至っていない。	会社の運営方針、社訓を事務所に掲示しているほか、今期の運営方針を職員全体会議の場で再度周知している。また、ホームの年度目標の実現に向けた月間目標については、毎月のユニットミーティングで振り返りを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物は、ご入居者とともに地域の店を利用し、散歩や地域行事にも参加することで、馴染みの関係が生まれつつあるが、まだまだ広げていける。	地域のとのつきあいについては、スーパーへの買い物を通じ顔なじみの関係が築かれているほか、地域のお祭りへの参加を継続している。地域包括支援センター主催の研修に参加し、地域との関係がより深まるよう努めている。	地域の方が気軽にホームに足を運んで頂けるホームを目指し取り組んでいるが、今後に向けても継続的に取り組み、より多くの成果が今後発揮されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を運営推進会議に招き、ご利用者の代表も参加することで、きららを知ってもらっているが、具体的には活かしてきていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間で決められた議題を基に自由な意見交換の場になっている。職員は議事録を確認して、日々のサービスに繋げている。	運営推進会議は2カ月に一度定期的を実施している。会議には、市の介護保険課、地域包括支援センター、介護相談員、利用者、家族の方が参加し、毎回テーマに沿って、参加者との意見交換を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で行う研修に参加したり、地域内各施設職員を情報交換したりして協力体制がとれている。	市の介護保険課との連携では、困難事例が生じた際の相談や事故報告等において連携を図っているほか、地域包括支援センターとも入居希望者の紹介を受けるほか、困難事例の相談等で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修などで職員一人ひとりが理解し、拘束しないことで起こり得るリスクについても常に考えヒヤリハットの活用とともに、予見能力を高めている。	法人内において身体拘束廃止委員会があり、ホームからも委員を選出している。委員会内容についてはミーティング時に報告し職員に周知している。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや研修などで、職員一人ひとりが理解し職員間で何でも話せるように、コミュニケーションをとるよう努めている。また、職員同士互いに注意し合える環境を作っている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修で学ぶ機会を得て、全職員は研修報告書などで理解できるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、契約に関して不明な点を聞き説明し、十分に納得していただけた上での契約成立をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会にて、意見・要望を発する場を設けている。また、ホーム玄関に意見箱を設置して、自由に意見を記入していただき、日常の支援に活かしている。	家族からの意見については、面会時に直接伺うほか、家族交流会(年2回)において意見や要望を収集している。また、ホーム玄関先に意見箱を設置しているほか、ホーム内外の苦情窓口について契約時に家族の方に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者がホームに出向き、職員の現場の声を聴き反映する機会が増えてきた。また、管理者から代表者へ現場の声を届けることもある。	全職員が、上期・下期の年2回「目標管理シート」を記入し、「目標管理シート」の内容に沿って、リーダー、ホーム長と面談を実施している。面談を通じて職員からの意見を収集するほか、毎月のユニット会議時に職員からの意見を収集し、日々の支援に活かす事が出来るよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加、勤務状況により、給与や評価に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の社内研修を行い、職員のスキルアップに力を入れている。また、社外研修に参加する場合でも、会社負担で積極的に参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に同業者が参加したり、市内同業者間で、職員の交流研修を行ったりして向上に努めている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面接を行い、不安に思っていること困っていること、望んでいることを聞き、安心していただける言葉かけで信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、困っていることや、施設などの要望を聞き、ご家族も安心してサービスを受けられるよう不安気象に努め、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のご入居者の状態を把握し、ご本人、ご家族の思いを基にどのように支援していくか、職員で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の家であることを掲げ、ホームでの生活を楽しいものにするように働きかけている。また、職員はご入居者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員の関係が良好なものであるように努めている。面会時には、ご家族の話をよく聞くようにして、電話で日々の様子を伝えたり、毎月ご入居者の写真や生活状況報告書を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買い物に行ったり、散歩コースに取り入れたりして、出会う機会を作り、関係が途切れない支援を努めている。	馴染みの人や場との関係が途切れないような支援では、利用者が以前通っていたパン屋にお連れし、家族と友人との時間を過ごす事が出来るように支援する等、関係性の継続に向けた支援を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や、買い物、食事の組み合わせなどを調整し、自然に馴染んでいくように関係に十分配慮しながら支援しているが、なかなか上手くいかないこともある。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のご家族から相談を受けたり、退去後の生活の様子を電話で話したりしている。今後も引き続き相談に乗る事を伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ、話をするように心がけ、ご本人の気持ちを引き出して、支援に繋げるようにしている。	利用者の思いや意向については、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の意向や要望を引き出し、ケアプランに反映し利用者の本位の支援が図れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールを利用して、ご家族に記入していただいた情報や、ご本人からの声を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで現状の評価をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のモニタリングや、定期的に行われる担当者会議で話し合いを行い現状の把握に努めている。	アセスメントの結果を踏まえ、担当者会議において職員からの意見を踏まえケアプランを作成している。作成後家族に説明し同意を得ている。ケアプランの進捗状況は毎月モニタリングを行い、利用者の満足度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個々の介護記録に残し、職員は出勤前に必ず目を通すようにしている。記録面に関してまだまだ不十分な点がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者やご家族が何を望んでいるのかを把握し、できる限り個々の要望に添った支援を行うように努めているが、すべて応えられるのではなく、ご家族と話し合い決めている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の散歩や、買い物などで、できるだけ多くの地域資源を活用するようにしているが、協働はまだまだこれからである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と、隔週で訪問看護、週1回訪問歯科が来ている。往診医、薬剤師ともに24時間連絡体制が図れている。	ホーム提携先医療機関による往診が月2回あるほか、主治医とは24時間連絡が取れる体制を築き、必要時に必要な医療を受けられる体制としている。また、訪問看護(月2回)、訪問歯科(週1回)とも連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に同行する看護師、訪問看護の看護師にご入居者の状況を伝え、様々なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急受診や、入院した際に病院に正確に情報を伝えるために、介護サマリーを用意している。往診医とも連携して些細なことも報告し合える関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメント時に、終末期について記入してもらう欄があるが、現時点では記入している家族は少ない。これから先のことを考え、ご本人やご家族とも少しずつ話し合う必要があると感じている。	重度化や終末期に向けての方針は、契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を基に説明し、「医療連携体制加算同意書」を交わしている。ホームとして取り組めることを契約時に説明し、早い段階から方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しており、職員は対応できるようになっている。また、研修に参加した職員より、他職員へフォローするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の方々やご家族にも協力してもらえる体制作りを行っている。夜間避難の方法はまだまだ手薄である。	消防署の立会いのもと火災を想定し、消火、通報、避難訓練を実施している。今後は夜間を想定しての避難訓練も予定している。近隣への協力については、運営推進会議を通じて要請している。	

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意をもち、ご入居者一人ひとりのプライドを尊重しつつ、他者との関係作りのために、職員は目配り、気配りを行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけが徹底する事が出来るように、不適切な発言があった際には職員間で注意し合う関係づくりを構築している。ホーム内勉強会の中でも「マナー研修」を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、また自己決定できるように努めているが、職員側の都合で優先されてしまう場面も時々見受けられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者本位を前提に、その人の生活パターンを把握した上で、できる限り希望に近い支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを受け入れ、自己選択を大切にしている。外出時や行事の時には普段よりも着飾りおしゃれを楽しんでもらい、いつもと違う雰囲気を作り出す努力をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、買い物の段階から調理、片づけまですべて参加できるように支援している。また、四季を感じてもらえるように、四季の食材をメニューへ取り入れたり、出前や外食などでも楽しめる場を提供している。	食事の準備では、買い物から調理準備に至るまで利用者も関わりなが準備を進めている。食事メニューについても利用者の要望を反映させている。食事を楽しむ工夫では、各ユニットや個別の要望に応じて外食に出かけたり、出前を楽しむ等の取り組みも確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量のチェックを行っている。また、毎入浴時 体重測定を行い健康管理に注意を払い、医師や看護師に伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを行うように職員が言葉かけをして、一人では対応できないご入居者には職員が付き添い対応しているが、全員対応しきれしていない部分もある。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせて、トイレで自己排泄ができるように働きかけている。毎日 排泄チェックを行い、個々に添った排泄パターンの把握やプライバシーに配慮した介助を行うようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズムパターンシート」に記入し職員間で情報を共有している。排泄に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューの中で、乳製品、食物繊維の多い食材を取り入れるようにしている。また、毎日 外出を設け運動するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが発汗時の清拭や失禁時のシャワー浴もその都度対応している。また、入浴は1対1でコミュニケーションを図れる大切な場として入浴時間を大事にしている。	生活のリズムを整えるために、入浴日はある程度決まっているが、利用者の体調や要望等を考慮して入浴できるように支援している。また、家族からの要望を踏まえ、入浴回数を増やすなど、家族からの意向も考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考えながら、自由に休憩してもらっている。夜間ゆっくり休めるように日中活動し、日光を浴び体内時計を合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用については個人ファイルに記しており、職員が必要な際、確認できるようになっている。また、不安な点はいつでも医師や薬剤師に相談できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で役割をもち、職員はそれぞれ継続できるように支援している。また、個々に合わせた外出・外食も実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩では、公園で花の散策をしたり、喫茶店に寄ったりするなど対応しているが、『その日の希望に沿って』というのは不十分な点がある。	近隣の公園までの散歩を日々の生活の中で取り入れているほか、喫茶店やレストランでの外食、1泊2日の温泉旅行の実施、テーマパークへの外出など、毎月行事計画を立て、外出支援の充実に取り組んでいる。	

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者一人ひとりのお金はホームで管理しているが、何か購入希望があれば職員と一緒に買い物へでかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や携帯電話を所持し、ご家族との連絡をとっているご入居者もいる。必要であれば職員が仲介に入り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清潔に気を配り、日中・夜間その時に合った、音、光などに気を配るようにしている。	リビングのソファやテーブルの位置に関しては、利用者の状態や動きに合わせて配置している。リビングには季節に合わせ花を飾り、装飾も華美になりすぎないように配慮している。トイレや浴室も清潔に保たれており、安全面、衛生面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はご入居者一人ひとりが居心地の良い空間であるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き、以前の生活から継続できる環境をもって生活しており、プライバシー空間を守るためにも入室時は必ず許可を得てから入室している。	居室内には利用者がこれまで使い慣れた家具や馴染みの物の持ち込みを可能としている。自宅の部屋のように使用できるように家具等の配置も利用者や家族の要望を踏まえ、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものは置かず、居室からトイレ、リビング、キッチンなどいけるように、見守りをしながら必要に応じては一緒に付き添い対応している。		